

学会員の皆様

こんにちは、国際交流委員会よりニュースレター第 11 号をお届けいたします。

今回は、第 31 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会で国際交流委員会が企画する海外招聘講演でご講演いただくチェスラ教授の研究論文の紹介と、第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 国際交流委員会企画交流集会の報告をいたします。今後も国際的な観点から学会員の皆様へ糖尿病看護に関する有用な情報を発信してまいります。

トピックス

1. 第 31 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 国際交流委員会企画招聘講師の研究紹介
2. 第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 国際交流委員会企画交流集会のご報告
3. 糖尿病関連国際学会情報
4. World Diabetes Day 情報

1. 第 31 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 国際交流委員会企画招聘講師の研究紹介

国際交流委員会では、第31 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会において、海外招聘講演を企画しました。ご講演いただくのは、カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学部名誉教授、Catherine (Kit) Chesla 先生です。学術集会では、「多様な文化的背景をもつ人々への糖尿病療養支援 (Diabetes Self-Management Support for People from Diverse Cultural Backgrounds)」をテーマにご講演いただきます。

日時: 2026 年 9 月 27 日 (日) 9:00~10:30 リモート講演 逐次通訳付

場所: 大阪国際会議場 第 3 会場 (特別会議場)

チェスラ教授は、米国の多様な民族グループを対象に、家族と 2 型糖尿病に関する研究を展開してきました。コミュニティと協働し、中国系移民とその家族を支援する臨床実践ガイドラインの開発にも貢献しています。本ニュースレターでは、チェスラ教授の研究について、これまでご発表された論文を一部具体的にご紹介したいと思います。

チェスラ教授は、アメリカで生まれた中国系アメリカ人夫婦における 2 型糖尿病の夫婦間支援、特に文化適応過程、とりわけ二文化主義 (biculturalism)、すなわち継承文化と米国主流文化の双方からの習慣や実践を取り入れる能力について、解釈学的現象学的方法を用いて明らかにしました。15 組の夫婦へインタビュー調査を実施した結果、夫婦間支援には「糖尿病治療養生法の支援」「糖尿病ケアを妨げる社会的・文脈的要因の調整」「困難な慢性疾患とともに生きることに對する関係性に基づくケアと共感の提供」という 3 つの主要な側面が認められました。中国の信念や実践の文化維持を反映した支援には、他者志向性、家族中心性、調和と均衡への配慮が含まれていました。また、二文化的な支援パターンには、間接的かつ直接的な配偶者間コミュニケーションや相互依存と自立・自律性の尊重の双方による関係性にも認められ、それぞれ中国文化および米国文化の志向性を反映していました。

(Chesla C et.al: Biculturalism in couple support for diabetes care in U.S.-born Chinese Americans, Research in Nursing & Health, 2019. DOI: 10.1002/nur.21926)

他に「2 型糖尿病を有するフィリピン系住民に対するモバイルヘルス・ライフスタイル介入の受容性と文化的妥当性」や「地域参加型研究を用いた、2 型糖尿病を有する中国系アメリカ人移民に対する文化適応型コーピングスキルトレーニングの有効性の検証」といったテーマでも論文を發表されています。



2. 第 30 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 国際交流委員会交流集会のご報告

日本糖尿病教育・看護学会第 30 回学術集会において、「外国人糖尿病患者への療養支援の困りごとを語り合いませんか？」をテーマとした交流集会を開催しました。前号では交流集会の概要について報告しましたが、今回は参加者から挙げられた困りごとの詳細について報告します。

外国人糖尿病患者への療養支援における困難さは、大きく 3 つに分類されました。

1つ目は、【表面的な壁：言語による情報伝達の困難】です。言語やニュアンスの違いにより、指導内容が十分に伝わっているか確信が持てないことや、通訳・翻訳ツールの限界が挙げられました。また、外国人患者への支援には、日本人患者よりも多くの時間を要するという意見もありました。2つ目は、【根深い壁：文化・価値観・生活習慣・医療制度の違い】です。各国の文化や価値観、生活習慣、医療制度の違いが療養支援を難しくしている現状が共有されました。例えば、「中華料理しか食べない」といった訴えに対して、具体的な食事支援まで十分に踏み込めないことや、豆類や芋類が主食となっている国の患者に対する食事療法の難しさが挙げられました。また、「病気は神の定めや運命である」という価値観から、伝統医療に頼る傾向がみられることも共有され、具体例として、インドの伝統的民間療法として足潰瘍にマスタードオイルを塗布していた事例が紹介されました。さらに、医療制度への理解や期待の違いも課題として共有されました。例えば、アメリカでは加入する保険によって医療内容が異なるため、高額な保険料を支払っている患者ほど医療への要求が高く、他の患者を待たせてでも対応を求める場合があることが報告されました。3つ目は、【組織的な壁：スタッフ側の負担、知識・ツール不足、コスト】です。これは、医療機関としての受け入れ体制の限界に関する課題です。具体的には、スタッフ側に外国人対応への苦手意識があること、多言語によるホームページやパンフレット、入院案内などの整備不足、高額な通訳費用といったコスト面の問題が挙げられました。また、海外の医療機関における治療内容や使用薬剤に関する情報が把握しづらく、日本のお薬手帳のような仕組みがない場合には内服薬の確認が困難であるなど、情報不足や知識の必要性も共有されました。

今回の交流集会は、外国人糖尿病患者への療養支援に携わる参加者同士の貴重な情報共有の場となりました。参加者から寄せられた多くの声を、今後の支援体制の充実や実践に活かしていきたいと考えています。

3. 糖尿病関連国際学会情報

- ・ **American Diabetes Association's (ADA's) 2026 Scientific Sessions**
2026年6月5日～8日 @New Orleans /アメリカ
<https://professional.diabetes.org/scientific-sessions>
- ・ **ADCE2026**
2026年8月7日～10日 @オハイオ州コロンバス/アメリカ
<https://www.adcesmeeting.org/>
- ・ **IDF-WPR 2026 & ADC 2026**
2026年8月19日～21日 @メルボルン/オーストラリア
<https://diabetescongress2026.com/>
- ・ **The 62nd Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (EASD)**
2026年9月28日(月)～10月2日 @ミラノ/イタリア
<https://www.easd.org/annual-meeting/easd-2026/>

4. World Diabetes Day 情報

毎年11月14日は世界糖尿病デー (World Diabetes Day)です。「小さな一歩が未来を変える— 肥満対策とダイアベティス予防 —」が2026年世界糖尿病デーのテーマです。インスリンの発見者フレデリック・バンティングの誕生日に当たり、当日は世界各地でブルーライトアップを灯す行事が行われています。